

IDA クリニック
院長

PICK UP

THE PERSON

井田 憲蔵

KEY WORD

拠り所

— yoridokoro —

自分の疾患ときちんと向き合う患者たちを手助けしたいという理由から、産婦人科医となることを選んだ井田院長。実際に産婦人科医として働く中で、お産から緩和まで、幅広いライフサポートを行うことにも、やり甲斐を感じるようになった。しかし、院長は、ただ人々の一生に寄り添うだけの治療を行うつもりはない。高度不妊治療や遺伝相談、ライフサポートなど多岐にわたる問題を扱い、トータルに質の高い治療・ケアを行っていくのが目標だ。長きにわたって、トータルに。充実した治療で人々の心の拠り所となっていく。



「多岐にわたる専門性の高い治療で
末永く人々をケアしていきたい」



院長

井田 憲蔵

京都府出身。『東京大学』薬学部、同大学医学部を卒業し、『足利赤十字病院』産婦人科、『英ウィメンズクリニック』勤務を経て、父親が開院した『IDAクリニック』の院長となった。日本産婦人科専門医である他、日本人類遺伝学会会員、日本生殖医学会会員でもある。

「お父様と一緒に働けず、残念でしたね……。急遽院長になられて、経営者としての苦勞もあるかと思いますが……。」
「そうですね。お金の話はほとんど分からないので大変です（笑）。それでも先代のころから働いてくれている事務の人たち

「私も応援していますよ！」
「ありがとうございます。あとはライフワークとして、子宮頸がんの予防に取り組んでいきたいですね。子宮頸がんはワクチン接種と検診を受けてさえいけば、防ぐことができる病気。しかし、ワクチン接種の副作用の問題がクローズアップされる中で予防接種が進まなかったり、検診率が低かったりと、子宮頸がんの予防は進んでいない状況にあります。私は医師として、そうした現状を口惜しく思っていますし、子宮頸がん予防のための一助となるべく、邁進していきたいと思っています。」

「家業を継がれたということは、お父様と一緒に仕事を？」
「それが、父と一緒に頑張るつもりで不妊治療の勉強をしていたのですが、私がこちらに入る前に、父が亡くなってしまいました……。急遽地元・京都に戻ってきたので。父は『京都大学』の医局に入っていた人で、大学院の博士号の研究で体外受精の研究をしており、不妊治療の先駆けのような存在でした。」
「専門性を維持しつつあらゆる分野に対応したい」
「それは、父と一緒に頑張るつもりで不妊治療の勉強をしていたのですが、私がこちらに入る前に、父が亡くなってしまいました……。急遽地元・京都に戻ってきたので。父は『京都大学』の医局に入っていた人で、大学院の博士号の研究で体外受精の研究をしており、不妊治療の先駆けのような存在でした。」

「それは大きな財産ですね。ところで、今後はどんなクリニックにしていきたいと考えておられますか？」
「クリニックの範疇に入ることは、できる限りやりたいと思っています。既に体外受精をはじめとする高度不妊治療、遺伝相談、ライフサポートなどを手掛けておりますし、1つの分野に特化するのではなく、ある程度専門性を維持して、水準以上のことをやっていきたいですね。」

IDAクリニック

京都府京都市山科区安朱南屋敷町 35 ラクト D6F
URL : <http://ida-clinic.com>

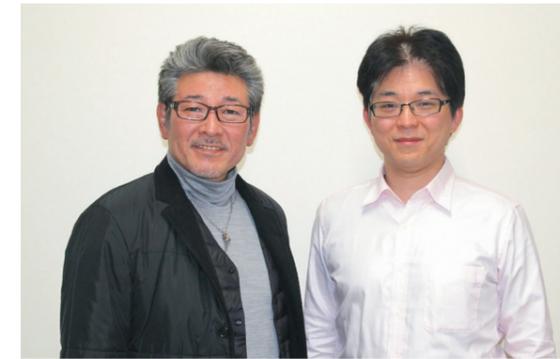
井田 憲蔵 | 院長 |



対談
interview
布川 敏和 | タレント |

「疾患と向き合う患者をサポートしたい」と産婦人科医になることを決意
「まずは、井田院長の歩みから。」
「私は元々、薬学の道を進んでいました。最終的には『東京大学』の薬学部を出たのですが、そのまま進むと、研究分野に身を投じることになるというところで、ある疑問が湧き上がってきたのです。それは「研究よりも、自分は人を診察したいのではないか」というものでした。父が産婦人科医だったので、その影響もあったのかもしれませんが。それで一から医学の勉強をしようと『東京大学』医学部に入りました。それから優秀な人たちと知己を得て、日本の最先端の頭脳一端を見る、ことができました。当時の経験は、これまでで一番の財産となりました。」
「そちらを卒業した後はどちらにお勤めになられたのでしょうか。」
「様々な疾患を数多く経験できると考え、三次救急のある栃木の市中病院『足利赤十字病院』で初期臨床研修医となりました。救急当直では一晩に救急車が立て続けに来ることも多く、命に関わるような危急の疾患を数多く経験しました。ただ、その時点では、救急科と整形外科、そして産婦人科

Commemorative Photo



「私にも娘がいるので、子宮頸がんの問題は他人事ではありません。井田院長のお話を伺って、私もより真剣にこの問題を考えていきたいと感じました。この問題に限らず、産婦人科に関わる多岐にわたる問題に取り組みたいと語る院長。様々な悩みに対応するのは大変かと思いますが、地域の患者さんたちのためにも、これからも元氣にお仕事を続けていっていただきたいですね」

布川 敏和 (タレント)

guest comment

「私にも娘がいるので、子宮頸がんの問題は他人事ではありません。井田院長のお話を伺って、私もより真剣にこの問題を考えていきたいと感じました。この問題に限らず、産婦人科に関わる多岐にわたる問題に取り組みたいと語る院長。様々な悩みに対応するのは大変かと思いますが、地域の患者さんたちのためにも、これからも元氣にお仕事を続けていっていただきたいですね」



多岐にわたる患者の悩みに応える産婦人科医

一般の産婦人科診療の他、体外受精をはじめとする高度不妊治療、遺伝相談など専門性の高い診療を行っている『IDAクリニック』。女性ならではの悩みや病を豊富な知識と技術で解決へ導いてくれるクリニックだ。本日はタレントの布川敏和氏が同院の井田院長のもとを訪れ、インタビューを行った。